

こどもたちの力を借りて地球を救おう！

こどもは世界を癒す、創造力の種

対 象：小学生
 人 数：プログラムによって異なる
 教科／分野：主体性を持った体験活動
 授業時間数：プログラムによって異なる
 場 所：室内・屋外どちらでも

<p>ESD プログラムへの 思い</p>	<p>国連の温暖化対策サミットで各国の代表を強い口調で非難し、早急な温暖化対策を求めたスウェーデンの16歳のグレタ・トゥーンベリさん。地球温暖化対策を求める運動をたった一人で始めました。彼女の思いが若い世代に共感を呼び、世界中で経済優先・見て見ぬ振りをしている大人に代わり、若者が地球を救おうとしています。</p> <p>こどもの世界は平和で、人種差別も障害の有無もありません。また、こどもたちには、自然と共生できる感性を持っています。そのこどもたちの力を借りて、大人たちを感化していき、人種・障害すべての壁を越えた活動を創っていきたいと思います。そのためには、こどもたちが自ら考え、自ら実行していく環境づくりを考えていきたいと思います。</p> <p>子どもの持つ限りない可能性が引き出され、子どもは視野を広げ、子どもならではの視点と創造力で活動を展開し、周囲の大人を感化していき、地球を救っていくことを祈る。</p>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験者が地球の一部だという感性を育む。 ・体験者が主体性を持って社会に貢献できる人材になり、自ら行動に移すことができる。 ・体験者が自己肯定感を持ち、他者を思いやる心が育つ。 ・体験者が自分の思いを伝えることができ、自らの成長を感じることができる。 ・体験者が多様な人に関わることにより、多様性が育ち、視野を広げることができる。 ・体験者の言動により、周囲の大人が感化され、社会を動かす。
<p>特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を求めず、プロセスを大切にする。 ・活動の出口を定めず、体験者の求める方向性を支援し実施へと導く ・話し合いや活動するにあたってのルールづくり等も体験者どうしで決定していく
<p>持続可能な社会づくりの 構成概念</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性は活動を通していく中で、いろいろな人・もの等に出会う ・相互性は社会の多様な主体等との連携の中で相関していく。 ・有限性は活動を通して、地球上にあるものやことに限りがあることを理解していく。 ・責任性は自ら考え、自ら行動することで自ずと責任性が育まれる。 ・連携性は多様な主体が関わり、課題を皆で共有し実践していくことで実感していく。 ・公平性はこどもを含め、一人一人が大切な存在であることが認められ、実感として持てる。

重視する能力・態度	①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的、総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤進んで参加する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦他者と協力する態度		
プログラムを行う上での条件設定			
時間	ねらい	方法 場所	内容
2時間	こどもの力を知ってもらい、こどもの力を借りた地域づくり等の実践場所の確保	講演会・ワークショップ 社会教育施設等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの世界観への理解 ・子どもの力への理解 ・子どもが主体となった活動事例の紹介 ・子どもたちが主体的に活動できる環境づくり ・実践場所へのサポート体制の説明
2時間	子どもが主体的に活動できる環境づくりのための、子どもに関わる支援者のための研修	講演会・ワークショップ ケーススタディ 実践場所	<p>《子どもが主体に活動できるための関わり方や姿勢》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口も手も出さない ・子どもの力を信じる ・見守りの姿勢 ・与えるのではなく、気づきを導く ・その場、その時間を子どもと共有する ・固定概念を捨て、今の状態から判断する ・その場を一緒に楽しむ ・お天道様が見ている
実践場所による	子どもたちの力を借りた地域づくりのモデルとしての活動事例を創る	手を挙げて頂いた実践場所の方法や場所による	<ul style="list-style-type: none"> ・手を挙げて頂いた主催団体等のニーズを共有しながら企画づくりをする ・参加していただく子どもを募集する ・実践のなかで気づいたことを主催団体と共有していく ・実践終了時に、活動報告書としてまとめ、モデルとして紹介する資料を残す
	<p>【実践場所例】①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修：2時間 ・企画会議：2時間 ・講座：30分×5回程度 ・定員：10名くらい 	研修講座 ワークショップ 柏市リサイクルリボン館	<p>『子どもたちが先生！風呂敷の活用講座』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを募集し、事前に風呂敷の使い方を学ぶ。 ・子どもたちに、リサイクルリボン館主催の『リサイクルフェア』での講座の企画を考えてもらう。 ・当日に、コーナーを設けて、子どもたちが考えたやり方で、来場者に対して、講座をしてもらう。

	<p>【実践場所例】②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ：40分 (学校の授業単位) 定員：35名くらい 	<p>ワークシ ョップ</p> <p>実践会場</p> <p>小学校等</p>	<p>『日本の伝統の良さ ふろしき体験教室』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化（レジ袋の代用としての風呂敷活用）の説明 ・風呂敷の歴史を説明 ・風呂敷の活用例を実践する ・子どもたちに風呂敷の活用法を考える ・家庭に帰り、親と一緒に活用する
	<p>【実践場所例】③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修：2時間 ・運営会議：3時間 ・実践：週1回5時間程度 ・イベント出店：5時間程度 ・定員：10名くらい 	<p>研修 会議 実践</p> <p>柏市光ヶ 丘地域の 空き店舗</p>	<p>『駄菓子屋 こども天国』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境づくりをサポートする人材の募集と研修 ・駄菓子屋を運営する子どもを募集する ・子どもたちと運営会議をする ・子どもたちが考えたやり方で、月1～2回、光ヶ丘地域のコミュニティスペースで駄菓子屋を運営する ・11月の地域イベント『ふれあいまつり』に出店して地域の大人たちに子どもの力を感じてもらう
SDGs との関連性	<p>④質の高い教育をみんなに ⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに ⑩パートナーシップで目標を達成しようなど、将来的にはすべて関連する。</p>		
学校・地域等との連携上の考慮	<p>活動の趣旨を理解してもらい、賛同者を増やしていく。 また、それぞれの立場を理解し、お互いに必要と思える関係性をつくり、協働して行う。 特に、学校との連携の場合、学校のカリキュラム（総合学習時間等）や実施時間、また対象学年に合わせたプログラムの策定・対象人数（クラス別や学年単位）など学校側との丁寧な打ち合わせが必要だと思う。</p>		
対象を発展させる可能性	<p>新たな活動を立ち上げる支援のみでなく、賛同者の既存の活動に、この趣旨を加える形式も併用していく。 体験者がその後、主体的に支援者となり、活動や対象者が長期的に発展していく。</p>		
その他補足事項	<p>風呂敷は参加人数分を貸し出すことが可能</p>		

プログラム作成者名：村田静枝（一般社団法人 ふろしき研究会 千葉支部）